

YAMATO Nature Circle



2025年1月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.72

— 絵と文 群馬直美 —

ツノツノの落とす影《ハルノノゲシ》

7月中旬、ヤマトビオトープ園でステキな葉っぱたちと出会った。
根ざわから葉っぱが放射状に出て、見事なロゼットになる途中なのかな？
どの葉も幼いけれど、その表情はすでに人生の荒波にもみくちゃにされちゃったかのよう。
土粒が付いていたり、黒ずみがあったり、色合いも大きさも8枚8様。
これは何の葉っぱだろう？ と首を傾げていると、
スマホの検索アプリが『ハルノノゲシだよ〜』と教えてくれた。
ハルノノゲシといえば、立川のアトリエの階段下の茂みに生えていて、
オニノゲシとヨモギの葉っぱと3枚並べて描いたことがある。
テンペラで葉っぱを描きはじめて16枚目の作品。32年前のこと。
そして、21年前の3月にも。ロゼットから伸び出た茎に付いた葉を1枚もぎ取って描いた。
それは、魔法のほうきを垂直に両手で抱え持ち、緑色のドレスを着たお妃様の様な葉っぱだった。
どちらの葉の縁にも小さなツノツノがたくさん。
今回の幼いハルノノゲシの葉っぱたちの縁にも、ツノツノがたくさん。
老眼が進み細かなところが見て取れなくなったので、
顕微鏡モードで撮影した資料写真を元にして描き込む。
すると、葉っぱの縁のツノツノたちが、微細な色合いで葉身に影を落としているではないか！
なんと、美しいのだろう。そしてそのツノツノの先端が、半透明のクリスタルの輝きを持っているではないか！
キク科ノゲシ属。『ハルノノゲシ』は、ノゲシの別名。

《表紙の絵》ハルノノゲシ

「土粒、汚れ、変色……

描けば描くほど、葉っぱたちの命が輝き出す！」

・ヤマトビオトープ園にて 2024.7.19採集
(作品の完成日は2024年11月18日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ・油絵の具
・size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>